



きず 傷のまわりが、かゆくなるのはなぜ

けがをなおそうと、いろいろなものがはたらいているため

けがをした^{あと}後の、傷のまわりや、傷口^{きずぐち}にできた「かさぶた」^{した}の下を、かゆく感じる^{かん}のは、皮^ひふの中^{なか}で、けがをなおそうと、いろいろなものがはたらいているためです。

傷^{きず}ができると、血^ちはすぐにかたまって傷口^{きずぐち}をふさぎ、出血^{しゅっけつ}したり、ばい菌^{きん}などが入^{はい}りてきたりするのを防^{ふせ}ぎます。次に、傷口^{きずぐち}から入^{はい}ったばい菌^{きん}などを殺^{ころ}すために、白血球^{はっけつきゅう}などが集^{しゅうごう}合^かし、傷^{きず}が化^かのう(うむ)するのを防^{ふせ}ぎます。

そして、傷口^{きずぐち}をなおして、元^{もと}通り^{とお}の皮^ひふにするために、皮^ひふは新^{あたら}しい細胞^{さいぼう}をどんどんつくりま^{きずぐち}す。傷口^{きずぐち}がふさがって傷^{きず}がなおると、「かさぶた」^{しぜん}は自然^{しぜん}にとれていきます。

ひ 皮ふがかゆくなるのは

皮^ひふには、痛^{いた}みを感じる^{かん}神経^{しんけい}がある、痛^{つう}点^{てん}というものがあ^{かん}りますが、かゆ^{かゆ}みを感じる^{しんけい}神経^{しんけい}というの^{かん}は、ないといわ^{しんけい}れています。

そのため、痛^{いた}みがうん^{かる}と軽^{かん}いとき^{しんけい}には、痛^{いた}みを感じる^{かん}神経^{しんけい}が、痛^{いた}いはず^{かん}がかゆ^{かん}いと感^{かん}じてしま^{かん}うため、体^{からだ}がかゆ^{かん}くなるのだ^{かん}と考^{かん}えられてい^{かん}るのです。

ですから、傷^{きず}のまわりや「かさぶた」^{した}の下を、かゆく感じる^{かん}もう一つの^{げんいん}原因^{げんいん}としては、傷^{きず}の痛^{いた}みが軽^{かる}いため、痛^{いた}みを感じる^{かん}神経^{しんけい}が、かゆ^{かん}いと感^{かん}じてしま^{かん}っているとい^{かん}うことも、考^{かん}えられる^{かん}のです。(監修・保志 宏)

